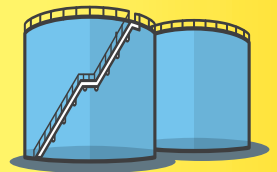


安全性をモニタリング調査でチェックしながら ALPS処理水海洋放出



ALPS処理水とは

東日本大震災の福島原発事故で発生した放射性物質を含む汚染水をALPS（多核種除去設備）で浄化処理し、除去できないトリチウム以外について、海洋放出の規制基準を下回る状態にしたもの。海洋放出を予定するにあたり、処理水を海水で希釈しており、トリチウム濃度は国の規制基準の40分の1、WTOが定める飲料水基準の7分の1未満。安全基準を満たした上で、放出する総量も管理して処分。

環境省では、ALPS処理水に係る海域モニタリング調査を行っており、放出にあたっては地点や頻度を増加させて対応に当たっています。

8月24日（木）午後にALPS処理水の放出が開始されたことを受け、環境省は、翌25日（金）朝に周辺海域の海水を採取し、放射性物質濃度について速報性を優先した分析を行う。⇒海水を採取した11か所全てで、トリチウム濃度が検出下限値未満（7～8Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認。

引き続き当分の間、毎週周辺海域の海水を採取し、放射性物質濃度の分析を行い、その結果を公表。風評を生じさせないため、客観性・透明性・信頼性の高いモニタリングを徹底してまいります。

まずは安心を確保する風評被害対策の徹底！ 中国の輸入規制などに対しては毅然と対応！

ふれあい対話集会では、重点政策について**リアル対話型**で語っています

今後の **ふれあい対話集会** 【予定】

いずれも19時～の開催を予定しております。
また、適宜ネット配信をしておりますので、直前のSNS発信にてご確認ください。

特設ページは
こちらから

10月7日（土）住之江区

住之江会館 大会議室

11月3日（金・祝）住吉区

住吉区民センター 集会室4

12月11日（月）西成区

西成区民センター 会議室2-1

1月22日（月）大正区

大正会館（コミュニティセンター）
会議室4・5



衆議院議員柳本あきら大阪事務所

■ 住所／〒557-0034 大阪市西成区松1-1-6

■ 電話／06-4398-6090 ■ FAX／06-4398-6091

E-mail: osakathanks@gmail.com http://www.yanagimotoakira.com

柳本あきら

検索

YouTube

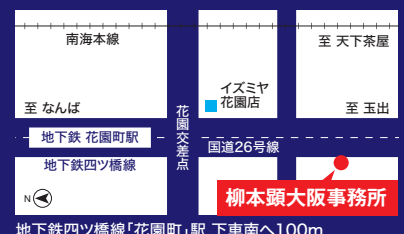
Facebook

X

Instagram

LINE

BLOG



使用済紙おむつの 再生利用等の促進



環境大臣政務官としてサーキュラーエコノミー（循環経済）に関わることを受けて、政務官プロジェクトとして「使用済紙おむつの再生利用等の促進」に注力。先進事例の自治体や事業者ヒアリング、現地視察、意見交換会を経て、8月9日に取りまとめを記者発表。

超高齢社会において、今後排出量が増加傾向

一般廃棄物（焼却工場で燃やされるゴミ）に占める使用済紙おむつの割合は現在でも5%以上。今後2030年度には7%程度になると見込まれている。

また、保育園でもサブスクで紙おむつを利用、回収する仕組みが一部で構築されつつあり、園児や保護者に対する環境教育につながっているようなケースもある。

「使用済紙おむつ」は、パルプ、樹脂、高分子吸収材（SAP）は、殺菌処理などをした上で再生利用等が可能。

【事例①】鹿児島県志布志市では、ユニ・チャームと連携して、おむつを再びおむつとして再生利用する取り組みが進められています。【事例②】鳥取県伯耆町では、スーパーフェイズと共同で、使用済紙おむつを全て燃料化して活用。2つあった焼却工場を1つに縮小することを実現しています。全国各地で様々な再生利用等の取り組みが動き出しています。

情報発信・自治体支援・事業者支援

まずは、紙おむつの再生利用等の事例があることを広く周知しつつ、課題の解消に努めていながら、更なる事業拡大に向けて取り組んで参ります。

この度、**2030年に使用済紙おむつの再生利用等に検討も含めて取り組む自治体を現状の3倍増の100自治体にする**という目標を掲げることとなりました。

廃棄物処理の
合理化

子育て支援

行政サービス
向上

資源循環

雇用創出

まちづくり

環境教育

紙おむつの
再生利用等の
魅力と可能性

